

高天神城址 歴史再発見 お宝発見の旅へ ようこそ！！

掛川駅から車で20分 搦手門（北口）駐車場、料金無料 150台以上可能 トイレあり

（案内）駐車場付近で春は梅や桜が楽しめます。搦手門から自然の杉木立の中を歩いて登れば三日月井戸を経て、少し回って石牢跡を見て、本丸跡に上がれます。ここからは比較的平坦な道を通って、御前曲輪跡から井戸曲輪を経て高天神社、馬場平へ至れば展望が開けます。標高は約130mです。



歴史的な見所は、たくさんあります。四、五百年の昔に思いを馳せ、城を巡る戦いの場となった横堀や堀切など歩いてみれば、山城としての険しさや厳しさを体験できるでしょう。その体験を写真や歌に残して、季節ごとに訪れて欲しいと願っています。

平成30年4月6日からは続名城100選のスタンプラリー（公益財団法人日本城郭協会主催）が始まります。高天神城のスタンプ置き場は右図中の大東北公民館になるようです。

掛川駅からのアクセスマップ



勝頼と家康の高天神城争奪合戦の史跡を訪ねて

高天神城。戦国の存亡を掛けた戦いの一つに大きな影響を与え、そして、勝者はいずこに、、、尾張（織田）三河（徳川）同盟の勢力拡大が進み、戦国の時代も大きな曲がり角を迎えようとしていた。武田信玄の死後、体制を立て直した武田軍は勝頼を筆頭に、甲府から西に進軍してきた。特に高天神城は徳川の家臣小笠原与八郎に守られ、自然の要塞に囲まれた難攻不落の城であった。歴史は多くの悲しみをつくる。と同時にそれを乗り越えるたくましさをつくる。土地に生きた人々にはそれは一瞬の一時だったかもしれない。しかし、人々はそれを語り継ぎ、形に残して伝えてきている。

山と緑に囲まれたこの高天神城周辺は、自然とともに人々の歴史に包まれている。四季を通して、散策するには絶好の場所である。

かな井戸（いわれは鉄分を含むため、、、）

天正2年合戦の中、飲料水乏しくここに深井戸を掘って露命を繋ぎ、また、勝頼率いる武田勢の猛進を仕切りを設けて必死の防戦に努めた。当時城が落ちるとき、鶴が舞い上がったという伝説がある。



堀切（切割）

尾根を進攻してくる敵軍を遮断するために、尾根をV字状に切り開いて通行を不可能にする防御施設。平時は丸太などの簡単な橋を掛けて通行し、いざ戦時となると丸太を落として通行を遮断する。

石牢址

天正2年落城の時、勝頼に降参しなかったために軍監大河内源三郎正局が閉じ込められた石牢。天正9年再び高天神城が家康の手に落ち救出されるまで、実に8年間をこの石牢で過ごした。家康は源三郎を忠義の範として評した。



横堀

尾根筋に沿って横方向に続く堀で、緩斜面からの敵の侵入を遮断するためのもの。

案内図にはありませんが近くに「千人塚」、「刀匠兼明の屋敷跡」、「華厳院」、「平塚刑場址」、「松本亀次郎公園」、「吉岡弥生記念館」などがあります。



写真は馬場平からの眺めです。馬場は見張りの番場から来ているか、、、

高天神社例大祭

約260年前、東峰にあった神社を西峰に移したことに始まり。年一回（3月最終日曜日）東峰の神社に里帰りされる行事が行われる。天狗の面を被った人（猿田彦）、刀・鉄砲を持つ人などの行列や神社の前では稚児たちの舞などが奉納される。